

○学校を休んだとき、連絡ノートに早く元気になってねと書いてもらってうれしかった。

友達の素晴らしいところ、してもらってうれしかったことの感想には、友達を大切に
する気持ちをもち、お互いを
尊重する言葉を書く子ども
が増えてきました。

これからも、「過ごしやす
い」「大切にされている」と、
どの子も実感できる教室を
つくっていきます。



また後期からは国語科算数科を中心に、ペア学習に取り組みました。友達の良いところを伝え合う活動を取り入れることで、よい行いが

ーブで考えを伝え合う、校庭で友達と思いつきり声を
 出して遊ぶ、運動会や発表
 会を全員で見合つて頑張り
 を認め合う。同じ時間を井
 有し、共感し、共に動くこ
 の楽しさや、人とかかわり、
 自分の居場所がそこにある
 ことを実感する。「当たり
 前」だけど大切なものを再
 確認できました。

一年間、保護者や地域の
 皆様には教育活動を支えて
 いただき、ありがとうございます。
 ました。(教頭 横山 京子)

だ」と改めて感じています。

例えば、アフターコロナとも呼ばれる今年度は、奪われていた「当たり前」のことができる喜びをたくさん感じた一年でした。みんなとおい、いね。こ言いがら

半島地震という、大変な災害で始まった年明けてした。家族と一緒にご飯を食べ、お風呂に入り、暖かい布団で眠る。そして、学校に通い、友達と学び、語り、ともに過ごす。そんな「当たり前」に「感謝」の心をもつことが必要

(編集後記)

※今年度ももちまして、紙面による『はぐくむ』の発行を終了いたします。来年度以降は、これまで本誌に記載してきました本校の「一人一人を大切にす教育」についての様子を古市小学校ホームページに掲載し、より多くの方々に発信していきたいと考えております。今後とも、本校の教育に一層のご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。

意識込んでいます。これから
もその気持ちを胸に、一日
一日を大切に過ごします。

誰かが幸に
五年担任 山手 夏子
大川 純也

五年生は、総合的な学習
の時間に、「肢体不自由のあ
る方とわたし」というテーマ
で学習しました。「肢体不自
由」という言葉を聞いて、多
くの児童が最初に思い浮かべ
た印象は、「何だか大変そ
う。」というものでした。

学習の一つとして、広島県
介護福祉士会の皆さんに來
ていただき、車椅子体験を
行いました。車椅子を押す
人と乗る人の両方を体験し
ました。押す人は乗っている
人が安心してできるように言葉
をかけたり、安全に気を付
けて操作したりしました。乗
る人は自分で操作すること
も体験し、数センチの段差を
越えることの大変さや、狭い
道やぐねぐね道を通ること
の難しさを実感しました。

初めは、漠然と「大変そう。」
と思っていた児童が、体験を
通して、「通学路にはもっと



段差があるよね。」あの道
は危険だろうね。」と、自分
たちの住む町の「身近にあ
る大変なこと」について、目
を向けることができました。

お話の中で、「福祉」とは
どういうことだと思えます
か？」と投げかけられました。
言葉は知っていても、意味ま
では考えたことがなかった子
どもたち。「福祉」とは、も
と「幸福」を意味していて、
全ての人が幸せで豊かな生
活を送れるように多種多様
な支援を行うことだと説明
を受け、自分たちにも関係
しているのだと知りました。

「誰もが幸せに暮らせる
ように、困っている人がい
たら助けたい。」

これは、学習を終えた後の、
ある児童の言葉です。子ど
もたちの助け合いや思いや
りの心が、身近な家族や友
達に対するものから、社会全
体に広がっていくことを願っ
ています。

ちが

六年担任 中川 憲悟

村田 奈美

岡本 卓憲

「友達とちがうことって、
どんなこと。」教師の問いに
対して、子どもたちは「身
長」「体型」「性格」「好み」
「考え方」など、外見のちが
いから内面のちがいまで、友
達と自分とのちがいを次々
と挙げていきました。これは、
総合的な学習の時間「多様
性とわたし」の一場面で
す。その後、「ちがいは、ある
方がよい、ない方がよいか」
についてみんなで話し合うと、
「ちがいがなければ、争いも
差別もないのかも」「だけ
どもみんな一緒でロボットみ
たい」「ちがいがあの方が自
分じゃ気が付かない発見がある」
「みんな得意分野がちがう
から、協力したらすごいこと
ができる」など、ちがうこと
はみんなの豊かさにつながる
のだ、という考えにまとまり
ました。

そこで、自分と「ちが

妊婦さんや高齢者、外国人
など、みんなで調べていくと
三十以上のたくさんさんの「ち
がいが集まりました。それ
らの中から一つを選び、さら
に詳しく調べ、紹介し合うこ
とになりました。妊婦さん
はどんなことに困られている
か」「認知症の方へのよりよ
い接し方とは」「車やゲーム
など自分が興味のある分野
では、多様な社会を実現す
るためにどのような取組が
なされているか」など、子ど
もたちは「ちが」というテ
ーマに対して、自分のことと
して向き合いながら課題を
設定し、学習を進めていまし
た。学習後には、「ちがうこと
にイライラせず、優しくでき
る方が、みんなが自分のまま
でいられる」「ちがについて
知らない、相手の立場に立
って優しくすることができな
い」といった感想を話してい
ました。

春からは中学校生活が始
まります。そこでも出会う
「ちがいを認め、大切に
かけがえない関係を築いて
いってほしい」と願っています。

成長を支える環境の調整
たんばば学級担任

齋藤 野乃花
大倉 隆弘
中山 佳津子
宮川 明子
芳野 希

「失敗するのが嫌なん
よ。」何度やってもうまくで
きない経験から自信がなく
なり、挑戦することに消極
的になる児童がいました。不
安が減るように、気持ちに寄
り添うような言葉かけをす
る、そばにいて一緒に活動
をする、一日の最初にスケジ
ュールと一緒に確認する、失
敗しにくいようになぞり書き
のプリントを用意するなど
環境を整えました。すると、
「できない」「やりたくな
い。」と言っていた気持ちが、
「やってみる。」という気持
ちに変わっていききました。成
功体験を積み重ねることで、
少しずつ自信がついてきて、
新しいことに挑戦する姿が
増えていきました。

また、たんばば学級では、
異学年の児童と一緒に学習
する機会があります。十二
月にはたんばば学級全体で

お楽しみ会をし、グループご
とにクリスマスリース作り
やポップコーン作りをしまし
た。児童が興味のある題材
を取り扱ったり、児童の力が
発揮できるグループを組ん
だりするなど環境を調整す
ることで、自分の役割を果
たそうとする姿や友達と協
力する姿が見られました。

○Aさんが手伝ってくれたか
ら飾りを貼り付けること
ができました。

○ポップコーンを作る時に、
みんな順番を守ることで
できていたよかったです。

友達とかかわり合う活動
の中で、集団生活に大切な
力がはぐくまれていくと感
じます。

特別支援教育は教育の原
点と言われていることがあり
ます。それは、一人一人に合
わせた環境を整えることによ
って児童の力を最大限発揮
できるようにするという考
えからだと思っています。これ
からもたんばば学級では、子
どもたちの行動と気持ちに
寄り添い、児童それぞれの
『困り感』に共感し、環境を
整え、成長を支えていきたい
と思います。

聴覚障害理解学習を通して
二年担任 河辺 一仁
山口 清夏

二年生の学年目標は「ピ
ースで協力しよう。全員で
頑張る二年生。」です。バズ
ルのピースのように全員が欠
かすことのできない大切な
存在であり、それぞれが活
躍できる学年になってほし
い。「協力し合い、自分のよ
さも友達のためにも認め合
い支え合える学年になってほ
しい。」という願いを込めて
一年間取り組んでしまし
た。

十二月には、聴覚障害理
解学習として、補聴器体験
ときこえの教室見学を行
いました。昨年度も聴覚障害
理解学習は行いましたが、コ
ロナ禍ということもあり、き
こえの教室見学はできませ
んでした。今年度は、きこえ
の教室の設備の見学だけで
なく、どんな学習をしている
のかについても詳しく学びま
した。また、補聴器体験では、
一年前の体験よりさらに多
くの発見をすることができ、
次のような感想をもちまし
た。

○補聴器を着けると、雑音
が混ざって、いろんな音が
こえにくい。もう少し静か
にしてほしい気持ちになっ
た。授業中は静かにしよう
と思った。

○テニスボールが机や椅子に
付いているわけがよく分
かった。これからは、きこえ
の友達が助かるようにはっ
きり話しかけようと思っ
た。

静かに話を聞いたり、はっ
きりと話をしたりすること
で過ごしやすくなる友達
がいることを理解することが
できました。また、ある児童
は、「静かにしたり、はっきり
話したりするのは、みんなに
とっても助かることだから、
みんなで頑張りたい。」と
いう思いを発表しました。
この発言をきっかけに、教室
はとても温かい雰囲気にな
りました。

これからも、様々な経験や
学びを通して、みんなが過
しやす教室について考え、
互いのよさを認め合い、協
力し合えるようになってほし
いと願っています。

気づき、行動する大切さ
三年担任 津江 元暉
森原 三恵
栗末 容子

三年生は、総合的な学習
の時間に、「視覚障害のある
人たちの願いや思いを知り、
相手の立場に立って自分が
できることを考えよう」とい
うめあてで学習をしてきま
した。

まず、ユニバーサルデザイン
について学習し、障害に関す
る標識や、音の出る信号機、
エレベーターのボタンや点字
ブロックなど、学校や身のま
わりに、みんなが安心して暮
らしていくために様々な工
夫があることに気付きました。

また、アイマスクを着けて
白杖を頼りに歩く体験を通
して、目が見えにくい人の気
持ちは想像し、自分たちが
気を付けることについて考
えることができました。

一月には、盲導犬と生活
しておられる方のお話を聞
く学習を行いました。子ども
たちは、盲導犬がその方と常
に行動を共にし、役割を果
たす姿を実際に見ました。

そして、視覚障害のある人に
とって盲導犬は信頼できる
パートナーであり、大切な存
在であることを学びました。
お話を聞いたあと、視覚
障害のある人の生活場面を
想像し、自分たちができるこ
とを考えてみました。

○災害が起きた時などは、避
難するのも大変だし、周
りの様子が分からなかつ
たら不安だろうなと思
いました。わたしは、困ってい
る人に気付くことができ
るようになりたいです。そ
して、勇気を出して、声を
かけたいです。

○目が見えにくい人が安心
して出かけられる町は、み
んなにとっても暮らしや
すい町になると思いま
した。総合的な学習の勉強
で分かったことを家族と
も話してみたいです。

子どもたちは、これらの学
習から、お互いの違いに気
付き、助け合うことの大切
さを学びました。これからも、
相手を思いやる気持ちや、
自分に何ができるか考えて
行動する力を育てていき
たいと思っています。

「いよいよ来年は高学年で
す。古市小学校の一員であ
ることを意識して行動する
人になりたい。」

四月に児童に向けて話し
た言葉です。一組は「一日一
笑顔」を掲げて、相手を思
やることのできる人である
こと、二組は「一日一善」を
掲げて、周りの人のために行
動できる人であることを意
識して一日一日を大切に過
ごしました。学校のために活
動する五・六年生の行動を
紹介すると、困っている下級
生のために行動しようと思
意する児童が増えました。

一人一人のよい行動が、学
年のよさとして他の学年の
先生に褒めてもらえること
もうれしかったようです。

十一月に行われたなかよ
し月間の取組では、周りの



人のよいところを再発見
きて、心があたたかくなるエ
ピソードがたくさん集まり
ました。

○卓球クラブで試合をして
いるとき、自分のチームに
点数が入ると、「すごい。」
と言ってくれたり、球を取
ったら「ありがと。」と言
ってくれたりしたので、高
学年の人は周りをうれし
い気持ちにさせる人だ
と思いました。

○学校を休んだ日の問題が
分らなかったときに、隣
の友達だけでなく、問題
が終わった人がたくさん
自分のところへ来て、みん
なが「教えてあげる。」と
言ってくれてうれしかった
です。自分も友達や他の
学年に教えてあげられる
人になりたいです。

この一年間、高学年とし
ての振る舞いを意識して過
ごした四年生です。運動会
や学習発表会であつたいい演
技や演奏をする五・六年生。
集会やかかわり合いの活動で
前に出て発表したり、優し
く声をかけてくれたりする
五・六年生。憧れの心や目標
をもち、次は自分たちだと